

買物公園エリア未来ビジョン

ver.1.0

買物公園エリアプラットフォーム

令和6年3月

01

未来ビジョンとは

買物公園エリア未来ビジョンでは、
将来の買物公園エリアの姿とその実現
に向けた取組が示されています。

本章では、未来ビジョン策定の背景
や目的について説明します。



01 未来ビジョンとは

02

将来像を
考える
視点

買物公園エリア未来ビジョンって何？

買物公園は、旭川市の中心市街地にある全国初の恒久的な歩行者専用道路です。通りの両側には商業を中心とした様々な店舗や施設が軒を連ね、戦前から旭川のメインストリートとして賑わいを見せていましたが、現在は、人口の減少やネット通販の拡大に伴うライフスタイルの変化、沿道施設の老朽化に伴う低未利用土地の増加、大規模テナントの撤退などにより、日常的に買物公園エリアを訪れたいという気持ちになかなかつながない状況にあります。

しかし、買物公園エリアには、様々な活用が期待できる公共空間があり、そこでたくさんの活動を行っています。

買物公園エリアがこれから日常的に訪れる場所になる、また憩える場所となるためには、活動するわたしたちが同じ目標に向かい、取組を進めていく必要があります。

買物公園エリア未来ビジョンでは、「まちの顔」である買物公園を軸としたこのエリアの目指したい将来像に向け、買物公園エリアの今後のまちづくりの方向性や将来像実現に向けた取組を描いたものです。

03

目指す
将来像

04

将来像
実現に
向けた
取組

05

推進
体制

06

実現
に向けた
進め方

対象エリア



01 未来ビジョンとは

02

未来像を考
えるときの
視点

買物公園エリアの未来像がわかる！

みんなで進める
取組の考え方や方向性がわかる！

03

目指す未来
像

04

未来像実現に
向けた取組

買物公園エリア未来ビジョンでわかることは？

05

推進体制

06

実現に向けた
進め方

未来像の実現に向けたみんなの役割
(誰が・何を・どのようにする)がわかる！

01 未来ビジョンとは

02

未来像を
考える
視点

誰にとっての未来ビジョン？

→ 買物公園エリアで活動／利用するわたしたちです！

03

目指す
未来像

買物公園エリアではエリアに関わる様々な立場の人で構成する「**買物公園エリアプラットフォーム**」を設立し、未来ビジョンを策定することで、同じ目標に向かって、活動を推進していきます。

04

未来像
実現に
向けた
取組

この実現に向けては、作成に関わったメンバーだけでなく、買物公園エリアで活動、もしくは利用する**わたしたちの想いや行動が必要**です。またその受け皿として、買物公園エリアはこれから徐々に変わっていくポテンシャルも十分に持っています。

05

推進
体制

ぜひ、あなたの「同じ想いの人とつながりたい」、「未来像の実現に向けて活動したい」という想いを、**未来ビジョンで掲げる目標（未来像）**に向けて、随時「ライトな変化、アップデート」しながら、連携して取り組んで行きましょう！

06

実現に
向けた
進め方

－ステップ1－
未来ビジョンを読んでみる！

－ステップ2－
エリアに興味・関心を持つ！

－ステップ3－
エリアの仲間とつながる！

－ステップ4－
気軽に取組に
チャレンジしてみる！

居心地よく、過ごしたくなる
“買物公園エリアの実現”

01 未来ビジョンとは

02

未来像を
考える
視点

未来ビジョンを実現するとどんな未来になる？

03

目指す
未来像

事業者 にとってどんな未来になる？



チャレンジを
受け入れてくれる場所

エリアの事業者（ひと）
があなたの想いをつなぎ、
実現する場所に

居住者 にとってどんな未来になる？



お気に入り
が溢れる
日常の居場所

暮らしている人にも
便利で自分の庭のように
毎日出かけたくなる場所に

04

未来像
実現に
向けた
取組

利用者 にとってどんな未来になる？



誰かとの
出会いの
場所

エリア内の公共空間や沿
道の低未利用土地も積極
的に活用・滞在できる場
所に

来街者 にとってどんな未来になる？



旭川を強く
結びつける
場所

家族や友達、ひとりでゆっ
くり過ごせるとともに、
来る度に、新たな発見や
誰かと出会える場所に

05

推進
体制

06

実現
に向けた
進め方

01 未来ビジョンとは

02

将来像を
考える
視点

買物公園エリアの特徴は？

歩行者専用道路として50年以上の歴史を持ち、昔から続くものや新しいものが共存する「旭川の顔」ともいえるエリアです。商業施設、専門店、飲食店やオフィスも集積しているほか、様々な娯楽を楽しむことができる、ゆったりとくつろげる空間として、みなさんに親しまれ続けています。

03

目指す
将来像

使える公共空間

- ≫ 買物公園エリアを利用したイベントも多数開催しています
- ≫ 夏場には沿道にテラスセットが立ち並びます

繁華街や飲食店

- ≫ 道北最大の繁華街「さんろく街」や、ふらっと立ち寄りたくなる飲食店小路には店舗がたくさん立ち並んでいます
- ≫ 新規事業者のチャレンジを受け入れる屋台村もあります

多様な世代が楽しめる施設

- ≫ もりもりパークやICTパークなど子どもや若者が楽しめる施設があります
- ≫ まちなかぶunka小屋といった文化でつながれるスペースなど様々な施設があります

オフィス街

- ≫ オフィスビルや市役所等の施設が立ち並んでいます

アート・自然が感じられる空間

- ≫ 駅の南側に出ると川が流れ、豊かなガーデンが広がっています
- ≫ 買物公園にはいくつかの彫刻像が並んでいて、歩きながらアートを楽しめます
- ≫ 市役所と常磐公園を結ぶ豊かな並木道・7条緑道があります

04

将来像
実現に
向けた
取組

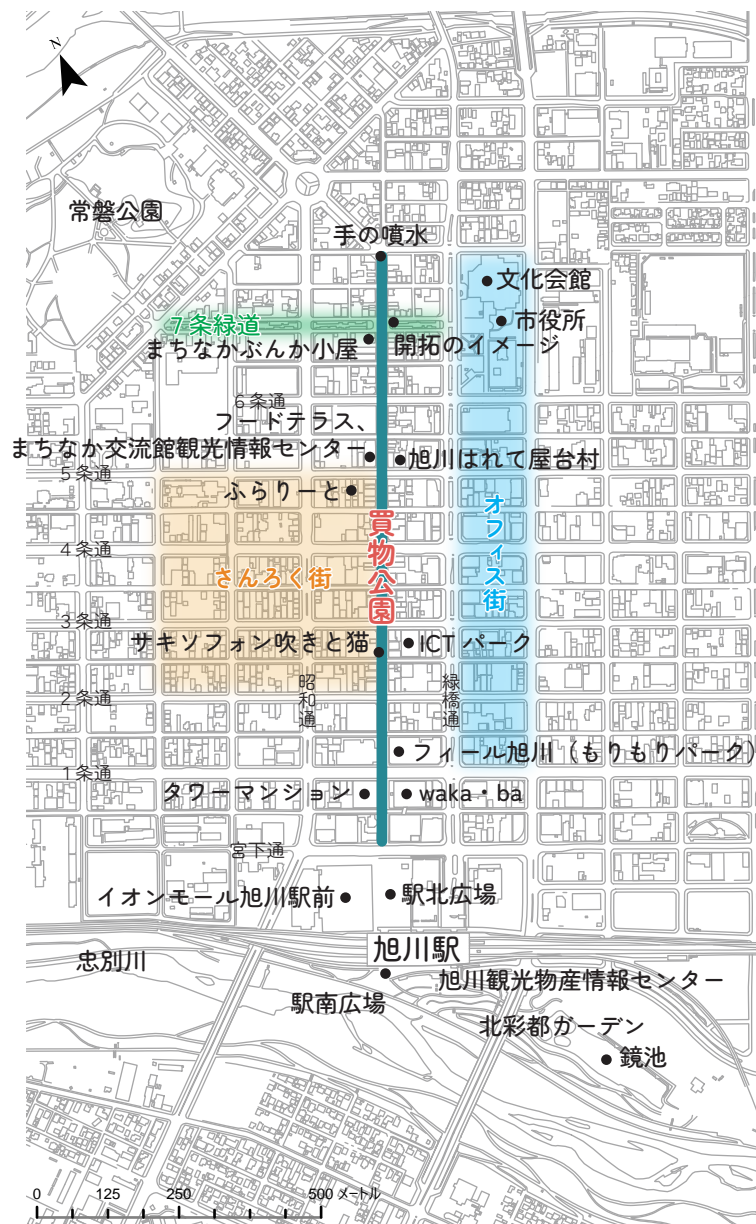
05

推進
体制

06

実現
に向けた
進め方

特性・資源 MAP



02

将来像を考えるときの視点

買物公園エリアビジョンの将来像を考える上で、これまでの経緯の整理や課題分析を行いました。

本章では、将来像を考えるときの視点について説明します。



02 将来像を考えるとときの視点

03

目指す将来像

04

将来像実現に向けた取組

05

推進体制

06

実現に向けた進め方

買物公園エリアの歴史

1890年：開村

1898年：旭川駅が開業

1901年：第七師団移駐 旭川駅から第七師団へと続く道は、「師団通」と呼ばれました。

1902年：旭川町制施行

1912年：常磐公園開園

1922年：旭川市制施行

1945年：師団通から平和通へ

1969年：社会実験の実施

8月に12日間の車両通行止が許可され、当時としては画期的な社会実験が実施されました。

2002年：買物公園リニューアル

リニューアル工事を経て、両側にロードヒーティングが施され、花壇や遊具などが撤去されるとともに、S字道路が直線になり、イベントで人が集まりやすい現在の姿になりました。

1972年：日本で初めての恒久的歩行者専用道路として、平和通買物公園誕生

交通事故の多さや札幌商圈拡大に対応するため、「車社会からの開放」と「自然との対話」による「人間性の回復」を目的として、恒久的な歩行者専用道路となりました。

2011年：4代目旭川駅舎開業

2022年：平和通買物公園50周年、市制施行100年

2024年：未来ビジョン策定

02 将来像を考えるとときの視点

03

目指す将来像

全国に先駆けて進む旭川の「ウォーカブルなまちづくり」

恒久的な歩行者専用道路である買物公園

買物公園は今から約50年前に誕生した**全国初の恒久的な歩行者専用道路**です。実現にあたっては**市と地元商店街が密に連携**を図り、車中心の道から「人のための道」に変えるため、**数度の社会実験**を経て、実現に至りました。

先進的な取組でまちづくりを進めてきた買物公園エリアですが、社会情勢の変化やまちづくりの課題を踏まえ、**この先のあるべき姿を考える機会が今来ています。**



出典：わたしたちの買物公園 旭川平和通買物公園の50年のあゆみ

当時の社会実験の様子

ちなみに、他の地域では？

国では“WE DO^{*}”に賛同する都市を「ウォーカブル推進都市」として募集し、国内外の先進事例の情報共有や今後の政策づくりに向けた意見交換を行うことで、全国で「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指した取組を進めています。2023.12.31時点で、361都市の都市が応募しています。

^{*}WE DOは『Walkble Eyelevel Diversity Open』の略称であり、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりのキーワードとして、2019年6月に国交省開催の「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」において、示されたものです。

04

将来像実現に向けた取組

05

推進体制

06

実現に向けた進め方

02 将来像を考えたときの視点

03

目指す将来像

買物公園に訪れる人たちの声から見える課題

訪れた時の印象

「歩きやすい」歩行空間となっているが、沿道・周辺に存在する魅力的な個人店やスポットの情報があまり知られていない。

来街時の移動手段

公共交通の利用者がよく訪れていることから、移動手段が、来街機会や立ち寄りの頻度に影響している。

訪れるタイミング

買物公園に訪れるタイミングは、「駅やその周辺に来た時に寄る」ことが4割と最も多い。若年層は「通勤・通学の通り道で立ち寄る」や「散歩する場、遊び場などとして」が他の世代と比べて割合が多い。

04

将来像実現に向けた取組

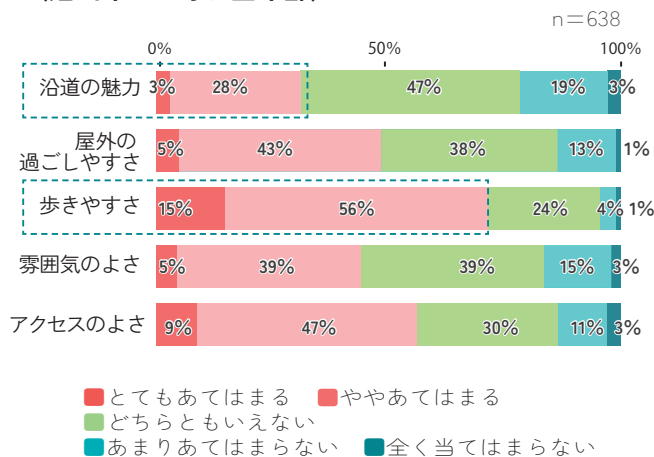
05

推進体制

06

実現に向けた進め方

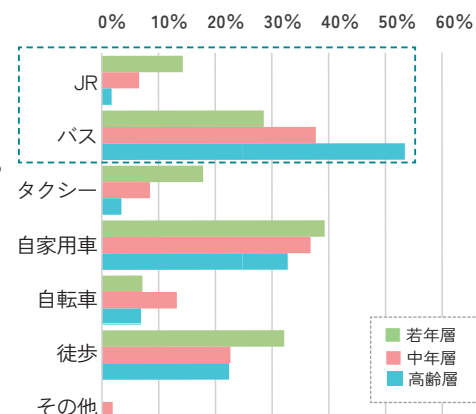
◆買物公園エリアを訪れたときに感じた印象 (旭川市・8町 / 全年齢) n=638



出典：買物公園あり方検討会議資料Webアンケート

◆買物公園エリア「よく訪れる」人の来場時の移動手段

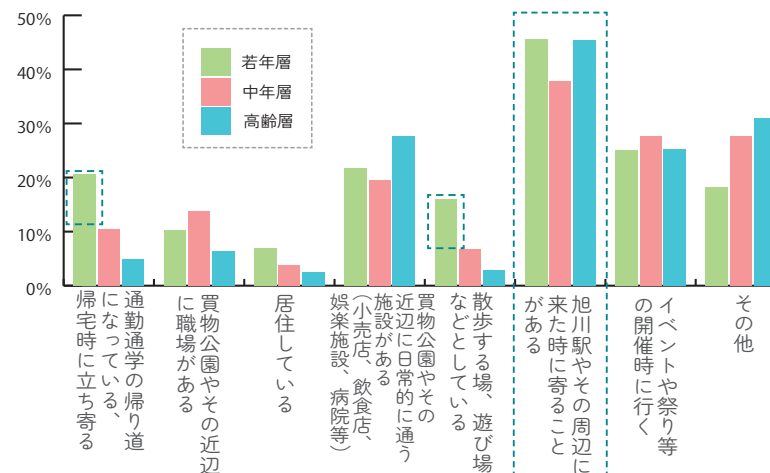
若年層：n=28 / 中年層：n=106 / 高齢層：n=58



出典：買物公園あり方検討会議資料Webアンケート

◆買物公園エリアへ訪れるタイミング (旭川市・8町 / 全年齢)

若年層：n=88 / 中年層：n=343 / 高齢層：n=207



出典：買物公園あり方検討会議資料Webアンケート

02 将来像を考えたときの視点

03

目指す将来像



買物公園エリアのまちの状況から見える課題

04

将来像実現に向けた取組

沿道建物 1F (グランドレベル) の業態

買物公園の沿道に面する駐車場・空き店舗は道路延長の約3割を占めているとともに、エリア全体に点在しており、沿道の魅力の評価は高くない。

05

推進体制

買物公園の利活用方法・場所

利用申請先が多く、手間がかかり、何ができるか、どこを活用できるのか分からない。新規のイベントや取組も実現しにくい。

06

実現に向けた

買物公園の使われ方

かつては見られた学生や子どもの滞在や活動が駅周辺に集中している。子育て世代向けの設備も少ない。

◆買物公園エリア沿道建物 1F の業態



凡例：1階業態

- 空きテナント、空きビル
- 解体・解体中
- 駐車場
- 建設中

◆沿道に対する延長距離

買物公園沿道	未利用地延長 A	道路延長 B	買物公園延長 C	未利用地が面する割合 A/(C-B)
東側	293m	248m	1,045m	37%
西側	222m			28%
東側・西側	515m	上記×2	上記×2	32%

出典：2023年度8月末時点調査結果

◆買物公園エリアでのフィールドワーク



フィールドワーク時の意見

新規のイベントがやりにくい...

授乳室がないなあ...

02 将来像を考えたときの視点

03

目指す将来像

04

将来像実現に向けた取組

05

推進体制

06

実現に向けた進め方



買物公園エリア内の人の動きから見える課題

移動軌跡

エリア内の回遊状況を見ると、**駅前エリアの滞在者は移動の広がりが少なく、他の滞在者も隣あう街区までの回遊に留まる傾向**にある。特に駅前では、隣接する街区に留まる傾向が強い。

滞在時間

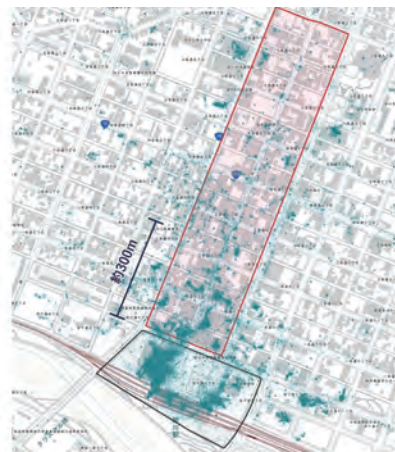
来訪者の滞在時間は、4条以北・以南ともに、**1時間未満が約6割**を占めている。

通行量

エリア内の通行量をみると、イベントを除き、**4・6条では冬季に減少**する。ただし、駅に近い断面では**夏冬で差はあまりない**。

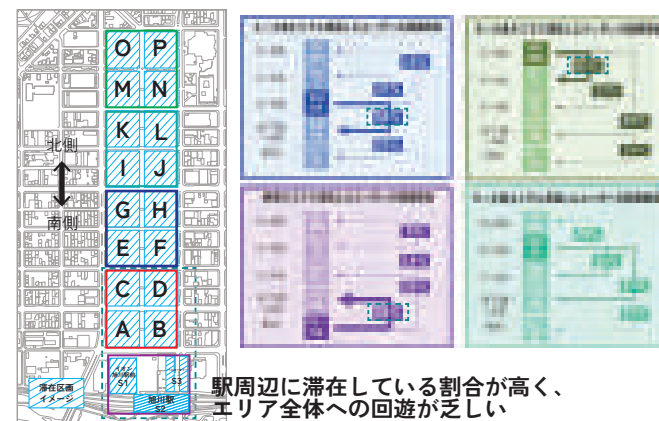
◆ 駅前エリア滞在者の移動軌跡

2022.7 全日の位置情報 (989,858 ログ)
※ 滞在時間が10分～5時間未満が対象



◆ 買物公園エリアにおける回遊割合

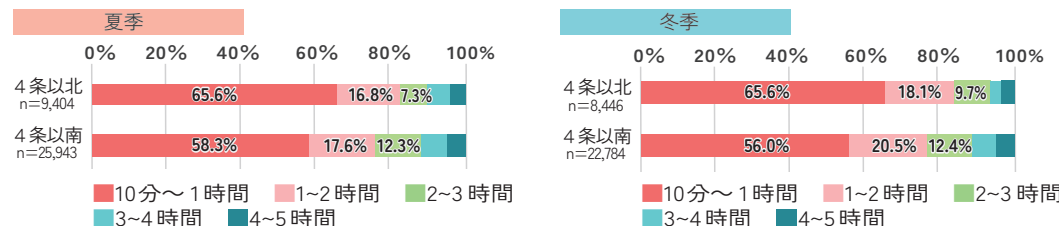
※合計3つ以上の区画を回遊するトリップを集計対象とした。
※5区画を回遊するトリップでは、サンプル数が少なくなるため4区画の回遊するトリップについて集計を行っている。



駅周辺に滞在している割合が高く、エリア全体への回遊が乏しい

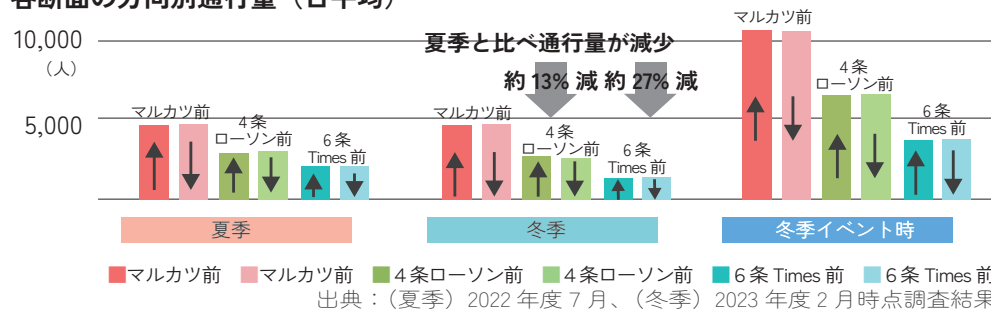
◆ 1度の来訪での滞在時間割合 (4条通以南・以北別)

※日平均、かつ滞在時間が10分から5時間未満の割合のみ記載



出典：(夏季) 2022年度7月、(冬季) 2023年度2月時点調査結果

◆ 各断面の方向別通行量 (日平均)



出典：(夏季) 2022年度7月、(冬季) 2023年度2月時点調査結果

03

目指す未来像

本章では買物公園エリアの目指すべき未来像をイラストパースで示すとともに、未来像により、実現したいエリアのイメージについて、説明します。



03 目指す将来像

04

将来像実現に
向けた取組

05

推進体制

06

実現に向けた
進め方

わたしの「毎日」がここにある



日常も非日常も、
ここで過ごすことが
暮らしの一部となり、
みんなが満たされる、
これまでの歩みを感じながら、
かわっていける、つながれる、

そんな旭川を中心である
「ここ＝買物公園」を
わたしたちがつくっていく。

03 目指す将来像

04

将来像実現に
向けた取組

05

推進体制

06

実現に向けた
進め方

実現したいエリアのイメージ



01 デザイン性の高い空間で ひとが輝くエリア

デザイン創造都市としての“おしゃれで洗練された”買物公園の歩行空間や沿道建物のグランドレベル、街並みなどに取り入れ、目的がなくても、誰もが訪れたいくなるエリアへ



イラスト作成中

02 行きたい・回遊 したいと思うエリア

買物公園エリアの効果的な情報発信や移動しやすいモビリティの導入により、エリア全体に散らばる自分のお気に入りを目的に滞在・回遊したくなるエリアへ



03 やりたいが自由に 実現できるエリア

エリア内に点在する公共空間や沿道の低未利用土地（空き店舗・空き地）を活用し、柔軟な利用ができる仕組みを考え、みんなのやりたいことが常に取り組めるエリアへ

04

将来像実現に向けた取組

将来像を実現するため、4つの基本的な取組方針を示すとともに、エリアの特性等から4つのゾーンに分けて、各ゾーンの目指す将来ビジョンと必要な機能について、説明します。

04 将来像実現に向けた取組

05

推進体制

06

実現に向けた
進め方

ありたい姿の実現に向けた基本的な取組イメージ

Action
1

誰もが

チャレンジできる場・仕組みづくり

- ①沿道空き店舗・未利用地等のストック活用促進
 - ・ストックの情報を共有し、活用できるフィールドを発掘することで、活用による多様な目的地を増やしていきます。
- ②公共空間の活用促進
 - ・公共空間の利用申請手続きの簡素化を行います。
 - ・誰もがチャレンジできて、新規出店しやすくなる仕組みづくりを行います。

Action
2

みんなとつながる

効果的な情報発信

- ①交通結節点等を中心とした情報発信
 - ・主な立ち寄り先となる交通結節点を中心に、エリア全体のイベント情報やエリア内の魅力的な店舗等の情報を入手できるように、効果的な発信を行います。
- ②エリアの価値を高めるための情報共有の場づくり
 - ・エリアプラットフォームを中心とした、エリアの関係者間で知見や情報の共有を行います。

Action
3

どんな時も

居心地よく・回遊しやすいエリア形成

- ①誰もが利用できる滞在空間（屋内・屋外）の設置
 - ・人が歩いても良いと感じる距離を意識した誰もが憩える高質な滞在空間を設置することで、滞在時間を増やします。
- ②滞在空間や周辺エリアとつなぐ移動手段の導入
 - ・エリア内や周辺エリアとの移動をしやすくすることを目的としたモビリティ導入などにより、賑わいを広げます。

Action
4

沿道がつながる

ブランディングされた街並み形成

- ①沿道建物の街並み統一
 - ・グランドレベルに開かれた魅力的なデザインと統一性のある街並みを形成するため、利活用のルール・ガイドラインを検討していきます。
- ②エリアの求心力向上
 - ・エリアの中心性を高める民間開発の誘導や老朽建物の更新、空きビル・空きテナント等の活用を推進するため、調査・検討を進めます。

04 将来像実現に向けた取組

05

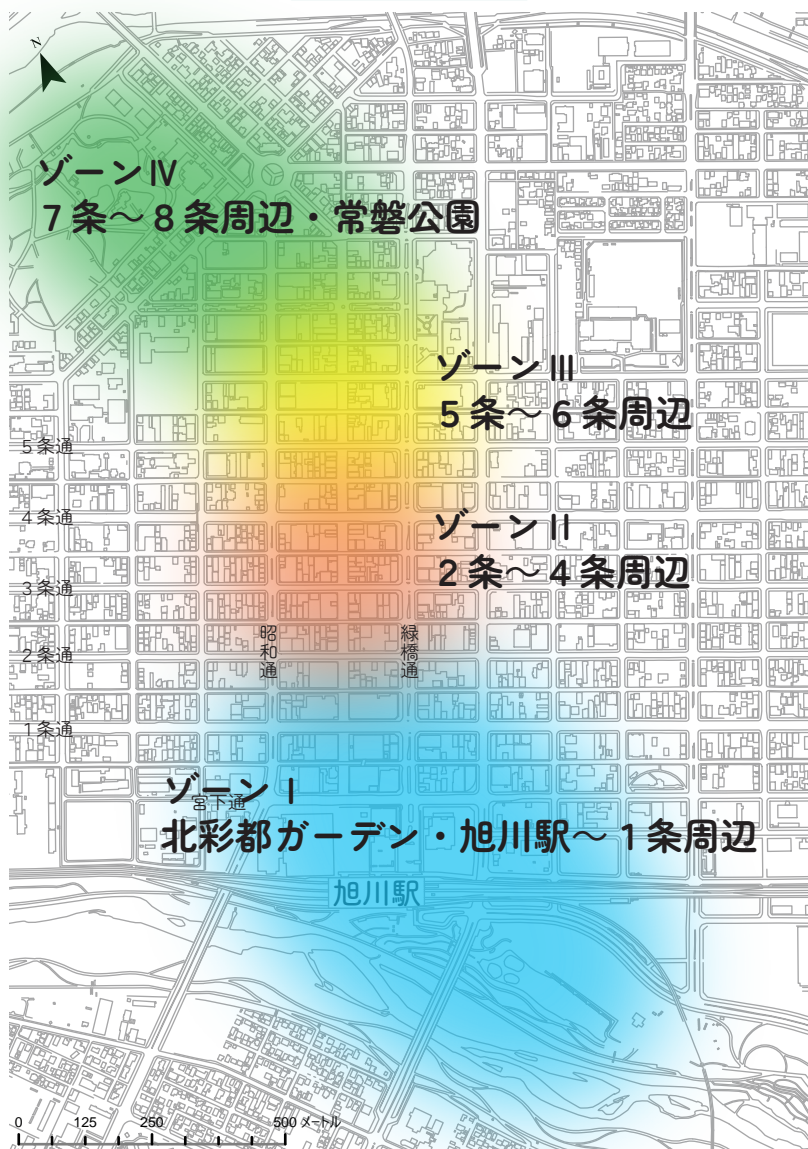
推進体制

06

実現に向けた
進め方

特性・強みを持つ4つのゾーン

ゾーニング図



ゾーンⅠ

北彩都ガーデン・旭川駅～1条周辺

都会と自然が近接したエントランスゾーン

ゾーンⅡ

2条～4条周辺

歴史と未来が共存するセンターハブゾーン

ゾーンⅢ

5条～6条周辺

食で惹きつけるハートウォーミングゾーン

ゾーンⅣ

7条～8条周辺・常磐公園

和やかな個性と自然があふれるカルチャーゾーン

04 将来像実現に向けた取組

05
推進体制

ゾーン別の将来ビジョン及び取組方針

06
実現に向けた
進め方

ゾーンⅠ

北彩都ガーデン・旭川駅～1条周辺

都会と自然が近接したエントランスゾーン



特徴・強み



人が集まるまちの中心

交通結節点があり、公共交通を利用する観光客、通勤・通学する人、自家用車で来街者を迎えにくる人など色々な交通手段を利用する人が集まる
(駅・駅周辺・1条通)



みんなに便利

都市機能が集積するエリアで、観光や出張で訪れる人や日用品を買物する人、子育て世代、周辺住民など全ての人にとって利便性が高い
(宿泊施設、大型商業施設、子育て関連施設など)



駅直結の豊かな自然

駅直結で、忠別川河畔の豊かな緑が広がり、都心部にいながら、旭川の雄大な自然を感じることができる
(北彩都ガーデンなど)

04 将来像実現に向けた取組

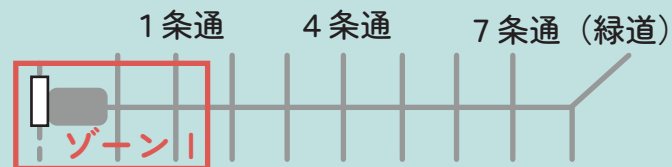
05

推進体制

ゾーン1

北彩都ガーデン・旭川駅～1条周辺

都会と自然が近接したエントランスゾーン



ビジョン実現に向けて必要な機能

結節点に隣接した憩える機能

快適な移動を支援する機能

エリアの魅力を発信する機能

店舗や建物が更新されていく仕組み



ゾーン1の目指す将来ビジョンイメージ

- 買物公園の玄関口として、気軽に行き来できる
- 都市生活をしながら、豊かな自然を気軽に味わえる
- 観光客や買物客の誰もが憩える・くつろげる

06

実現に向けた進め方

04 将来像実現に向けた取組

05
推進体制

ゾーン別の将来ビジョン及び取組方針

06
実現に向けた
進め方

ゾーンII

2条～4条周辺

歴史と未来が共存するセンターハブゾーン

1条通 4条通 7条通（緑道）



特徴・強み



ビジネスの中心

企業の支店などオフィスが立ち並び、働く人が集まる（テレワーク施設やオフィスの集積など）



歴史ある繁華街の入口

多くの飲食店が軒を連ね、幅広い年齢層に楽しまれ、旭川最大の繁華街に面している（サンロク街など）



滞在型の店舗・施設

滞在型の飲食店やエンターテインメントが多く集まっている（eスポーツの拠点、カフェ、カラオケ）



特色ある建物など

ガラス張りやレトロな外観を持つ店舗など、歩行者の目線で楽しむことができる建物や、市民に愛される彫刻が存在（店舗前にテラスがある飲食店など）

04 将来像実現に向けた取組

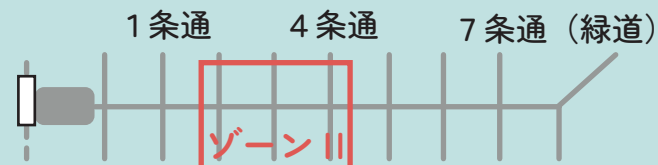
05

推進体制

ゾーンII

2条～4条周辺

歴史と未来が共存するセンターハブゾーン



ビジョン実現に向けて必要な機能

居心地よく
快適に滞在が
できる機能

気軽に滞在が
できる機能

特色ある
建物や空間が
活用できる機能

06

実現に向けた
進め方



04 将来像実現に向けた取組

05
推進体制

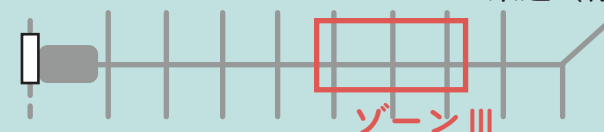
ゾーン別の将来ビジョン及び取組方針

ゾーンⅢ

5条～6条周辺

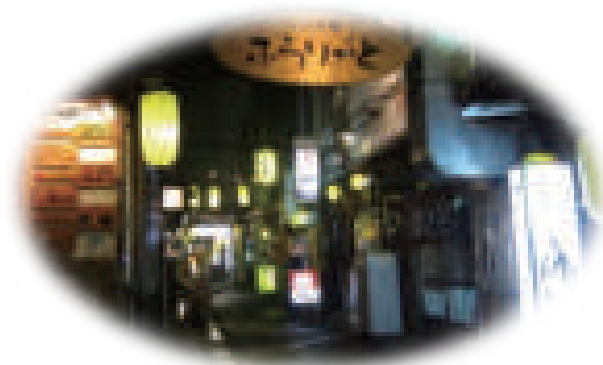
食で惹きつけるハートウォーミングゾーン

1条通 4条通 7条通（緑道）



06
実現に向けた
進め方

特徴・強み



特色ある食のコンテンツ

ソウルフードを提供する飲食店、雰囲気のある小路や新たな出店を支援する屋台村など、食のコンテンツが充実（ふらりーと、旭川はれて屋台村など）



大規模な低未利用土地

大規模な駐車場や一時貸し駐車場が多く存在



情報発信・観光案内

観光案内や買物公園内の情報発信がされている（まちなか交流館など）

04 将来像実現に向けた取組

05

推進体制

5条～6条周辺

ゾーンⅢ

食で惹きつけるハートウォーミングゾーン

1条通

4条通

7条通 (緑道)



ビジョン実現に向けて必要な機能

飲食施設が
さらに快適に
なるような機能

広いスペースを
活用できる機能

親子で楽しみ
滞在できる機能



06

実現に向けた
進め方

04 将来像実現に向けた取組

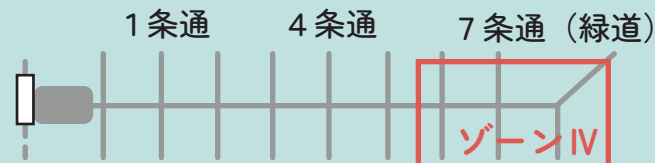
05
推進体制

ゾーン別の将来ビジョン及び取組方針

ゾーンⅣ

7条～8条周辺・常磐公園

和やかな個性と自然があふれるカルチャーゾーン



06
実現に向けた
進め方

特徴・強み



ローカルな店舗など

ローカルな店舗や、市民に愛される噴水（手の噴水）などが並び、オリジナリティのある雰囲気形成されている



まちなかの豊かな並木

7条緑道から常磐公園まで続く豊かな並木など、まちなかの貴重なみどりが存在



文化拠点を含む多様な拠点

多くの人が集う文化の拠点をはじめ、文化的な機能が集まっているほか、市役所新庁舎やシティホテルなど人が集まる施設も存在

04 将来像実現に向けた取組

05

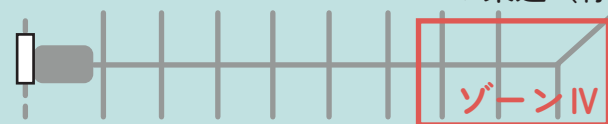
推進体制

ゾーンⅣ

7条～8条周辺・常磐公園

和やかな個性と自然があふれるカルチャーゾーン

1条通 4条通 7条通(緑道)



ビジョン実現に向けて必要な機能

豊かな並木
の中で快適に
滞在できる機能

文化の拠点と
連携した滞在機能

個人店舗連なる
ゾーンで新規開業
できる仕組み

06

実現に向けた
進め方

ゾーンⅣの目指す将来ビジョンイメージ

- 豊かな自然を生かし、集まる人が一息つきつける
- 集まる人同士がつながり、文化的な活動を発信できる
- 密なコミュニティで、様々なチャレンジが起きている



05

推進体制

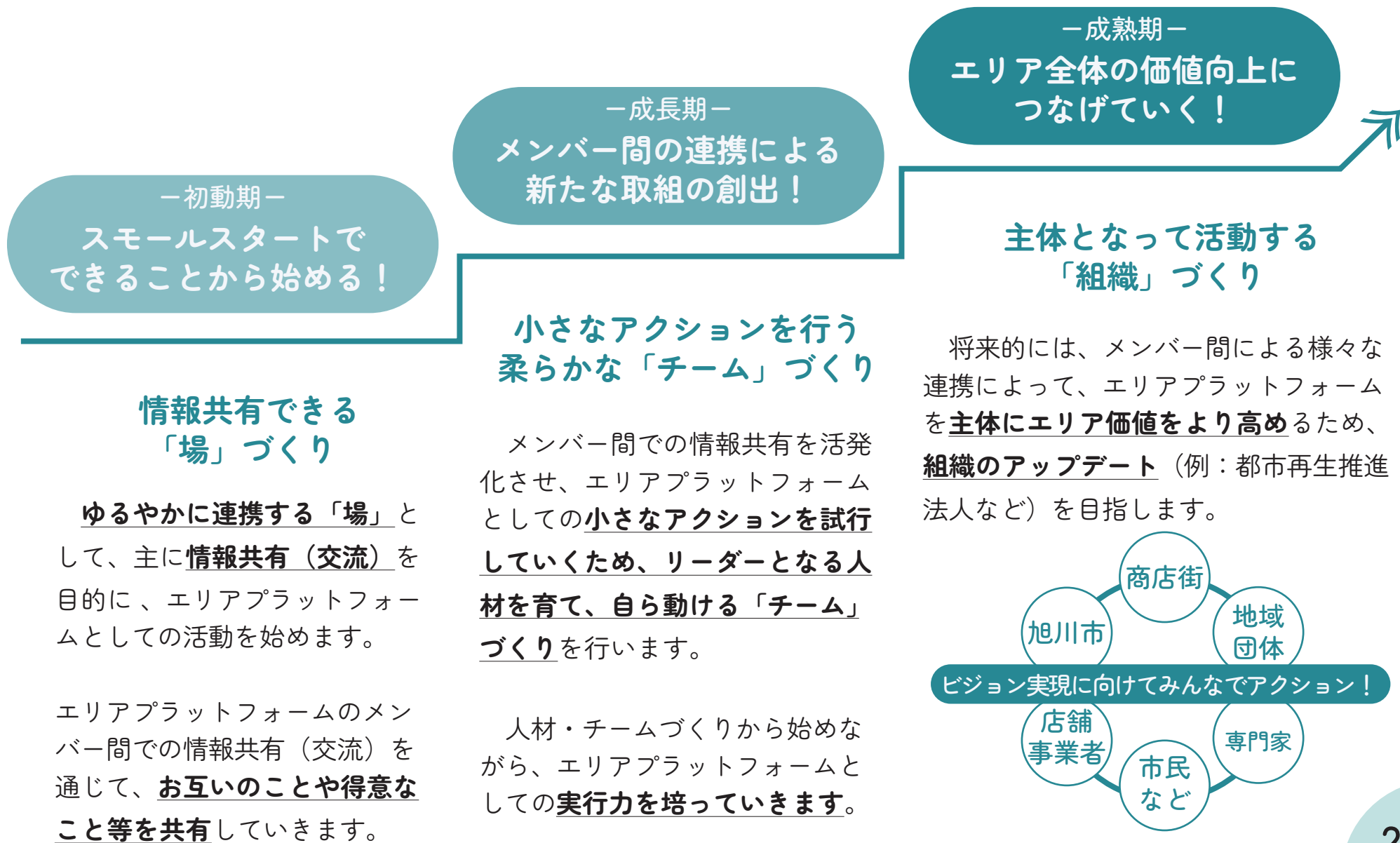
買物公園エリアの将来像や実現に向けた基本的な取組方針を進めていくため、買物公園エリアプラットフォームに関する3つの段階的な推進体制のイメージについて説明します。

05 推進体制

06

実現に向けた
進め方

将来像実現に向けた推進体制のイメージ



06

実現に向けた進め方

買物公園エリアプラットフォームに所属するメンバーと一緒に活動を進めていく人たちに期待する基本的な取組姿勢を示し、ビジョン実現に向けた進め方について、説明します。



06 実現に向けた進め方

将来像実現のための取組（活動）の基本的な取組姿勢

“じぶんごと”として、積極的に参加しよう！

- ・未来ビジョンの実現に向けて、自ら何か変えたい！
自分ならこんなことができる！という想いを持って参加しましょう！

同じ想いのメンバーたちとつながろう！

- ・未来ビジョンの実現に向けて、エリアプラットフォームには同じ想いや同じ悩みを持つメンバーが所属しているはずです。業種の立場や世代を超えたつながりをつくりましょう！

「今に、+αの価値」をみんなで作くりだそう！

- ・未来ビジョンの実現に向けて、自分の身の回りの取組に、一つ“買物公園エリアのために”を加えて、アジャイル※に実行してみましょう！

※アジャイル：状況の変化に対して素早く対応すること

06 実現に向けた進め方



未来ビジョン実現に向けた進め方

徐々にアップデート!

2024年

未来ビジョンの作成、 買物公園エリアプラットフォームの組成

- ・未来ビジョンの策定（官民）
- ・買物公園エリアプラットフォームの組成（官民）
- ・未来ビジョン策定シンポジウムの開催（官民）

各主体の「取組」を共有、 買物公園での「新たな居場所づくり」を試行

- ・買物公園エリア社会実験の実施（官）
- ・社会実験への参画・協力（民）
- ・情報共有の場づくり（官民）

2025年～

各主体がエリアプラットフォームを通じて、連携した取組を試行

- ・公共空間の利用申請手続きの簡素化の検討・実施（官）
- ・取組の主体的な試行（民）
- ・エリアの一体的な情報発信の検討（官民）

多様な主体がエリアプラットフォームに加入し、様々な取組・事業を展開

- ・民間の取組・事業を踏まえたまちづくりルールの検証（官）
- ・取組・事業の展開（官民）

20xx年

多様な主体が連携して、楽しみながら多くの取組・事業に取り組んでいる！
誰もが居心地よく、回遊したくなるエリアへアップデートし続ける！